

Pega Platform[™]

DXに最適なアジャイル開発



DXに最適なアジャイル開発

DXにおいてシステム開発に求められる要件と システム開発を強力にサポートするソリューション「Pega Platform™」

激しいビジネス環境の中で、優位性を維持していくためのDX。そのDXが求めるシステム開発に対する要件とは。

DXが求めるシステム開発に対する要件

企業は、事業戦略の策定、評価、見直しを繰り返し行って、自社事業を成長させてきた。しかし、近年、激しく変化するビジネス環境の中で、競合他社との競争は激化し、事業成長はより困難な状況になっている。このような状況において、DXは、ITを活用して激しいビジネス環境の変化に追従し、競合他社に対する優位性を維持できる企業に変革していくことを目的としている。企業変革を伴うことから、DXにおけるシステム開発は、一部業務のシステム化や自動化などゴールが明確であった従来のシステム開発とは異なり、より広範囲で、より不確実で推進が難しい要素を含んでいる。本稿では、DXが求めるシステム開発の要件について考察し、そのシステム開発を効率的に進めるソリューションを提案することで、DX推進の一助にしたい。

DXが求めるシステム開発の要件は2つあると考えている。

1つ目は、短期間で迅速にシステム開発ができるということだ。ビジネス環境が激しく変化するため、事業戦略策定、評価、見直しは、より短いサイクルで繰り返し行われる。事業戦略見直しの際、付随する業務も変更され、それらの業務を支えるシステムの変更も余儀なくされる。さらに、策定した事業戦略の評価には、定量的な情報も必要となり、情報収集に関するシステム変更も発生する。事業戦略変更の都度、発生するシステム変更に時間をかけると、次の事業戦略の見直しが遅れ、ひいてはビジネス環境の変化に追従できない結果を招いてしまう。そのため、システム開発は、より短期間に、迅速に、結果を出すことが求められている。

2つ目は、段階的に進められるシステム開発であるということだ。策定される事業戦略も手探り状態であり、必ずしも正しくないかもしれない。事業戦略は正しいのか、間違っているのか、成否を判断しながら進めていく必要がある。システム開発においても、事業戦略変更に関連する全てのシステムを一度に変更してしまうことは、本来、必要のない開発を行う可能性も高く、コスト、期間の関係から得策ではない。まずは、必要最低限の部分から開発をはじめ、事業戦略の成否を判断した上で、次の開発を進め、開発の方向性を見直す、こうした段階的な進め方ができることも必要な要件と考えている。

このような要件を満たすシステム開発には、ウォーターフォール型の開発手法よりも、アジャイル型の開発手法が向いている。ウォーターフォール型開発は、基本計画、基本設計、詳細設計、とフェーズを分割し、分割したフェーズを確実に進めていく。基本的に開発着手以降の変更は難しく、開発期間も長くなってしまふ。そのため、要件が定まっていて、確実に、高品質を担保するケースに向けた開発手法と言える。一方、アジャイル型の開発手法は、小さな単位で実装とテストを繰り返し行い、その繰り返しの中で開発の方向性を適宜、修正して進めていく。さらに、システム開発に関する全権限を開発チームに委譲することで、仕様策定、変更の判断を迅速に行うことができる。そのため、不確実性の高く、様々な変化への対応が必要なDXには適切な開発手法と言える。

そこでアジャイル型の開発手法を支えるプラットフォームとして注目したいのが、ローコード、BPMの機能を兼ね備えた「Pega Platform」である。

ローコード、BPM プラットフォームを用いて、アジャイル開発を強力にサポート

Pega Platform の特徴は大きく 3 つある。

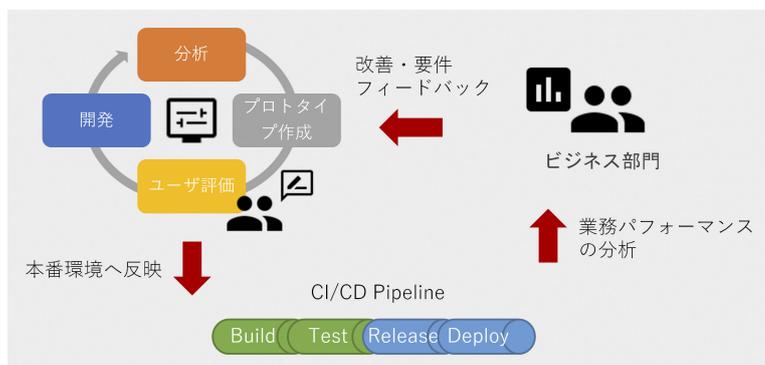
1 つ目は、継続的な業務改革に向けて柔軟なプロセス管理が行えることである。Pega Platform は、部門/システムごとに分かれたデータを統合し、部門横断で業務プロセス全体を可視化できる。そのため部門間で重複している業務を見つけ出し統合することで無駄な業務を削減できるほか、手作業を含めボトルネックとなる業務を特定し、自動化などを通じて業務効率を改善させることが可能となる。また、Pega Platform は、多くの IF コネクタを兼ね備え、複数システムを統合するハブとして、部門や業務で分断されていた情報をつなぎ合わせることができる。

2 つ目は、実務担当者が持つ言語化できなかった業務ナレッジを形式知化し、システムに取り入れることができることである。Pega Platform での開発は、現場の実務担当者の経験を重視した「Pega Express」と呼ばれるデザインアプローチ（デザイン思考）をベースとした手法で行われる。この開発手法では、実務担当者が必要とする要件

を機能デザインとして落とし込み、実際に動くアプリケーションを用いて検証を繰り返すことができる。つまり、現場の実務担当者を巻き込み、実務担当者の主体性を育成しながら、業務改革を行うことで、真に必要な要件を形にした競争力のあるシステムを作り込むことができるのだ。さらに、Pega Platform には、業務担当者の要求に応えビジネス価値を高めるため、あらかじめ多様な UI パーツが用意されているだけでなく、スクラッチ開発で拘った UI を実現することも可能だ。

3 つ目は、柔軟性や自由度が高く、アジャイル開発に適したローコード開発機能を備えていることだ。BPM ソリューションであると同時に、ローコード機能を有しているツールであるため、実際に動くアプリケーションでクイックに検証し、継続的にシステムの業務適用性を評価しながら、システム改善を行うことができる。また、Pega Platform にはアジャイル開発を支援するためのバックログやユーザフィードバックを管理するツール、DevOps 関連の機能なども用意されている。そのため、環境変化に伴う要件の変更や優先度の見直しに迅速かつ柔軟に対応しながらアジャイル開発を行うことが可能となり、例えば、ビジネスインパクトの大きな課題が発生すれば、即座にその課題の対応を優先し、業務プロセスへ反映させることができる。

日鉄ソリューションズは、日本企業として初めて Pegasystems と戦略的パートナーシップを締結し、Pega 製品を使ったシステム構築および DX 推進の支援を行っている。豊富な開発経験に裏打ちされた業務知見を備える同社であれば、これまでの経験を活かした的確なアドバイス・提案も期待できる。Pega Platform の導入を検討している場合は、日鉄ソリューションズに相談してみるとよいだろう。



Pega Platformは、継続的に、業務部門から要件を引き出し、またフィードバックを的確に取り込むことで価値の高い業務プロセスを作り上げることができる。これは、ローコードの特徴を活かしくイックにプロトタイプを作成して、すぐさま業務部門の評価得ること、BPMソリューションとして、継続的に業務パフォーマンス分析を通じて、改善を繰り返していくことで環境変化に追随していくことによるものだ。

日鉄ソリューションズ株式会社

〒105-6417 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号 虎ノ門ヒルズビジネスタワー
お問い合わせ E-mail. dts-marketing@jp.nssol.nipponsteel.com
<https://www.marketing.nssol.nipponsteel.com/>

NS (ロゴ)、NS Solutions は、日鉄ソリューションズ株式会社の登録商標です。
すべての製品名、サービス名、会社名、ロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。